

## 神奈川県立保土ヶ谷養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	平成30年度 神奈川県立保土ヶ谷養護学校 第2回 学校運営協議会		
開催日時	平成30年10月26日(金) 午前9時30分～12時00分		
開催場所	保土ヶ谷養護学校 保護者控室及び校長室		
(役職名)出席者	会長：渡部 匡隆、副会長：浅野 和則 委員：栗原 敏郎、大上 和成、松本 哲、坂本 知子、片岡 充彦 事務局：向井 博幸、樋笠 晴美、本間 修治、石塚 いづみ、村山 知美、 柏原 旭、川口 圭子 オブザーバー：藤田 肇(特別支援教育課)		
次回開催予定日	12月12日(水) 午前9時30分～11時30分		
問い合わせ先	神奈川県立保土ヶ谷養護学校 副校長 向井 博幸 TEL 045-714-0581 FAX 045-742-9716 フォームメール(※下記の箇所をクリックすると、お問い合わせフォームをご利用いただけます) <b>神奈川県立保土ヶ谷養護学校のホームページ(お問い合わせフォーム)</b>		
下欄に掲載するもの	・ 議事録	議事概要とした理由	/
審議(会議)経過	○開会 (会長) ・過半数の出席による本会成立を確認。 ・配付資料確認。 ・本会の公開原則とホームページによる事前告知確認。 1 校長挨拶 ・出席御礼。校内のトイレ、現在改修工事でご迷惑をおかけする。高等部では、本日まで校内・現場実習に取り組んでいる。この後校内実習をご覧いただいでご意見やご助言をたまわりたい。また後半では、給食の試食をしていただく予定である。そちらもお楽しみください。 2 会長挨拶 ・本校はコミュニティスクール試行校4校のうちのモデル校になっている。建設的な議論を願うところである。 3 授業視察 ・高等部1年の校内実習で、受注のボールペン組立及び食品パックシール貼り作業を視察いただいた。 4 学校評価部会 中間報告と質疑応答 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小学部</span> ・アセスメントとして、小2以降は「太田ステージ」、小1は「KIDS」を		

実施した。9月に学部内で研修会を行ったので、今後指導に反映させていきたい。また、学部として「小学部でつきたい力」、「将来必要になる力」について話し合ったところである。

- ・権太坂小学校と学校間交流を実施している。

#### 中学部

・学部として、新学習指導要領について研修を深めている。また夏季休業中、昨年度より多くの教員が「進路先見学会」に参加した。今後、「中学部段階で身につけたい力」について話し合っていきたい。

#### 高等部

・高1で初めて「学校アセスメント」を実施した。研修を通してアセスメントについて理解を深め、その成果を有効に活用していきたい。また、高等部として「進路先見学会」に積極的に参加した。

・夏季休業中に行われた「清掃技能検定」に昨年度より多くの生徒が参加することができた。

#### 舞岡分教室

・ICT機器の使用実績が向上している。分教室として、生徒に「働くために必要な力」を身につけさせる方策を検討し、実践している。高校側と交流授業を実施している。

#### 横浜平沼分教室

・「こころと体」の体について研修会を開き、内容やねらいについて共有化を図った。設置校の壁面に分教室の展示スペースを確保することができた。

#### 教育企画グループ

・新学習指導要領に係る学習会を実施し、現行の教育課程の見直しを図った。また、各学部間の教育課程のつながりについて検討した。「個別教育計画」の課題となる部分について検討した。

#### 教育支援グループ

・「わかる力・きめる力」の視点に沿って研究推進をしている。研修が実践につながるよう、他グループと連携して各学部の取組みをフォローしている。搜索体制やスクールバス乗車中の大規模災害対応、アレルギー対応について検討し、マニュアル等改訂を図っている。

#### 連携支援グループ

・今後、児童生徒個々のニーズに合わせたアセスメントの活用を推進していきたい。また夏季休業中、4日間延べ12コースの「進路先見学会」を実施し、のべ162名の教員が参加した。今後、学校ホームページのアクセス数アップを目指していきたい。また、「パラスポーツ」イベントの開催時期や周知方法を検討していきたい。

#### 管理運営グループ

・様々な場面における教員のタブレット型端末の使用率が、昨年度に比べ向上してきている。夏季休業中の「防災研修会」の中で、大災害発生時における一次避難完了後の体制について確認することができた。また、今年度中に全校で防災に関する授業を実施していきたい。

5 切れ目ない支援部会の報告

(校長)

- ・部会の委員及び構成員について、事後承諾となることをお許し願いたい。

(教頭)

- ・第1回会議の中で情報交換を行った。パラスポーツは、交流のためのツールである。何のために交流を行うのか、教員として理解をさらに深めていかなければならない。次回は、11月17日(土)に実施する予定である。

6 学校評価部会の報告と承認

(校長)

- ① 学校卒業後働くために必要な力を含め、生活するうえで必要となる力を身につけさせるために学校で取り組むべき指導について、委員の皆様にご助言いただきたい。
- ② 本校の研究の方向性について、それを確実な授業改善につなげるためにはどのように取り組むべきかご助言いただきたい。
- ② 地域の中にある学校として、地域に向けどのように発信していくべきかその内容や方法についてご助言いただきたい。
- ④ 防災について、大災害発生時に地域とどのように協働していくべきか、ご助言いただきたい。

(委員 A)

- ①について、新入社員に関して言えば、体ができていない。体操もできない。学校では身体の使い方を指導してほしい。体力が向上すれば、腰痛の防止等にもつながり、長く働くことができるようになる。
- ④について、学校にはどの程度の備蓄があるか伺いたい。

(管理運営 GL)

- ・3日分の備蓄を用意している。

(委員 B)

- ①について、ボールペン組立の作業の様子を視察した。集中して作業に取り組める環境作りにも成功している。また、生徒自身が自分の苦手な動き、難しい点を理解して取り組んでいた。受注は緊張感を持って取り組むことができ、動機づけとしては良いと思う。今後は高2、高3と担当職員が替わっても取組みを維持できるよう引継ぎを確実に。受注の仕事は、完成させて相手に届ける、ということまで含めて大事である。受注の仕事、必要なら相談してほしい。
- ③について、自分の施設では「トイレ貸します」「授乳室あります」などの幟を掲げている。地域の方にまずは施設内に気軽に入ってもらいたい、というねらいもある。また、地域の避難訓練にも参加している。

(委員 C)

- ③に関わって、交流授業をしているが、高校側の生徒にも良い影響を与え

ているように感じている。

②について、児童・生徒をどのように育てていくか、子どもの育ちの目標を明確にして、目標達成に向け、職員全員が一丸となって取り組むことが大切である。

④について、光陵高校では登下校時に発災した場合のシミュレーションが課題と捉えている。

(委員 D)

①についてであるが、受注以外に作業種はあるのか。

(連携支援 GL)

- ・ 1 学年を 5～6 班に分け、空き缶をつぶす作業などを、生徒の実態に応じて用意している。いろいろな取り組みにチャレンジさせている。
- ・ アセスメントを行うことで、「この作業なら取り組める」「この環境や手立てがあれば取り組める」などということが分かる。

(委員 D)

③について、地域の方々は保土ヶ谷養護学校に興味や関心を寄せていると感じている。「学校へ行こう週間」などの周知方法等について、さらなる改善の余地があるのではないか。

④防災に関する授業はどのような内容のものであるのか。

(管理運営 GL)

- ・ 児童・生徒の実態に合わせて、登下校時の確認、防災倉庫の見学など、数パターンの指導案を準備した。また、小学部なら「生活」の時間、高等部なら「課題」の時間など学部や分教室において取り組みやすい時間に実施したいと考えている。

(委員 E)

①について、ボールペンの組立作業をしていた生徒たちはよく取り組めており、卒業後に就労ができるよう力をつけさせたい、と思った。

②について、「太田のステージ」に興味がある。どのようなものか、次回以降の運営協議会で紹介してほしい。

(会長)

- ・ 以上、切れ目ない支援部会のメンバーの件含め、学校評価の中間報告について、委員のみなさま、よろしければ拍手承認としたい。

～拍手～

- ・ ありがとうございます。承認といたします。

(事務局)

- ・ ご審議ありがとうございました。いただいたご助言を後半期の取組みに生かしてまいります。

## 7 協議 テーマ「学びの連続性とわかる授業の推進」

(委員 A)

- ・ 本校では、卒業時点で 1～2 割の就労率にしか結びついていない状況がある。就労に結びつくような指導や取り組みをもっと充実させてもよいのではないかと、思うがいかがか。

(連携支援 GL)

- ・分教室では5割程度の生徒が就労している。現状では、卒業後すぐに働く、という気持ちが3年間で育たない生徒も多い。また、進路先の選択肢も増え、「なぜ卒業後すぐに就労しなければならないのか」というように保護者の考え方も多様になってきている。

(委員 E)

- ・保土ヶ谷養護学校全体としては3割程度が就労している。県の平均と比較しても、必ずしも本校の就労率が低いとは言えない。

(会長)

- ・この課題について推進していくにはどのような工夫があろうか。

(校長)

- ・就労できる生徒はもっと多かろうが、自己評価そのものが低い、または気持ちをコントロールすることが難しい生徒は多い。そのまま就労させるには、学校として二の足を踏んでしまう。生徒の心を育てるには、高等部3年間では不足である。ゆえに、小学部（小学校）から中学部（中学校）、高等部へと続く学びの連続性が重要であり、見えにくい学校の存在をいかに見えやすくしていくかが課題である。学校単独では、無理な部分もあろう。それぞれの学校が、相互に理解・協力し合う努力をしていきたい。

(委員 B)

- ・生活介護の事業に取り組んでいるが、重度の方は発達に時間を要する。児童の時期には自分の言葉で言えなかったことが、20歳頃になって言えるようになることもある。

8 事務連絡

(事務局)

- ・本会について、名称を募集している。ご協力願う。
- ・次回日程について、この後ご都合をうかがいたい。

9 給食試食

- ・栄養職員より、本日の献立、提供している配慮食等について説明がなされた。

10 副会長挨拶

- ・明確な目標のもと、具体の達成状況について報告があり、滞りなく学校運営がなされている、と感じた。

11 学校長挨拶

- ・本日給食を召し上がっていただいたところであるが、子どもたちと一緒に食べていただくのもよかったかな、と思った。今後とも、どうぞよろしく願いたい。

○閉 会

以 上

会 議 資 料

※添付なし